



今に生きる



令和2年度 日進市立日進西中学校 学校だより 2021.3.24 発行

「三寒四温」のころ、「花は咲くとき がんばらない」

穏やかな陽光が降りそそぎ、季節は確実に春の訪れを感じさせています。

3年生が卒業して2週間が過ぎ、令和2年度最後のまとめの学校生活を送っていた1・2年生が「修了式」を迎えました。

この令和2年度は、4月・5月の「臨時休校」から幕を開け、「3密」を避けた学校生活、「新しい生活様式」に従いながら「新型コロナウイルス感染拡大防止」に努めた一年間でした。それでも、ほとんどの生徒たちが「当たり前」でない日常を「有り難いこと」なのだと思え、できることを精一杯工夫して、その結果を残すことができた令和2年度であったと自負しています。

特に、この3学期は、『感受・感謝・感動』の「三感」をキーワードに、自分の周りの人の思いを「感受」し、あらゆる場面で「感謝」の思いを素直に表すことができました。

「3年生を送る会」での「感動」のシーンは今もそれぞれの心の中に残っています。

これほどまで「三感」豊かに育った生徒たちに、「充実した一年になりました。ありがとう」と感謝の気持ちでいっぱいです。

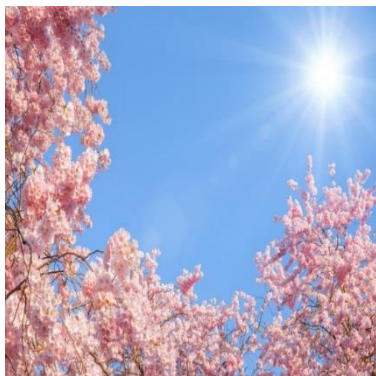
今ここで、生徒の皆さんに伝えたいことは、「四恩」です。

1つ 級友への恩 … この365日を共に過ごした仲間たちに、ありがとう。

2つ 先輩、後輩への恩 … 自分の周りの人すべてに、ありがとう。

3つ 親への恩 … どのような時も考えてくれていたのは、みんなのこと。

そして、4つ 先生への恩 … 最後の恩は、私たち教師への課題です。私たちは



本当に、皆さんに「協力」の大切さを伝えることができたのか？十分に「勉強」の楽しさを伝えることができたのか？「努力」することの尊さを身をもって示すことができたのか？

すべての生徒に「恩」となり得る教師であったか…。

今ここで結論が出ていないものもあるかもしれませんが、「教育」は、もっともっと長い時間を経てから、その成果が表れるものなのでしょう。

『感受・感謝・感動』の「三感」をキーワードに、この一年間のゴールが見えた今、あらためて、この学校生活の多くが、自分ひとりではなく、多くの友人・仲間・家族・地域の方々に支えられているということを実感しているのではないのでしょうか。

今まで支えていただき、本当にありがとうございます。生徒たちは、今日まで精一杯、自分ができることを実行してきました。

卒業した3年生はもちろん、1・2年生も、この一年間ずっと、頑張り続けてきました。思いどおりにならないことも、何回かあったことでしょう。心や身体にストレ

スを感じたときもあったことでしょう。

何かにつけ、「頑張れ！頑張れ！」、「もっとだ！ファイト！」、「何やっているのだ！」と叱咤激励（しったげきれい）され、「私は、こんなに頑張っているのに……」と叫びたくなるときもあったことでしょう。

そのようなときに、ふっと心が癒される『魔法の言葉』を見つけましたので、紹介します……。

それは、『 **花は咲くときには頑張らない、緩めるだけ** 』です。

以前、朝日新聞の「天声人語」に掲載されていました。3年前にも紹介しましたが再びこの場に掲載します。

『 確かに 力入れて 頑張って 花は開かない。

バネに逆らうようには開かない。

ただ、固く閉じていたつぼみを

そっと、するっと、ほどくようにして花が咲く。

いま、頑張って 頑張って 意固地になって
評価されようとして 反発して

固く固くつぼみを閉じている。

そんなひとは、 ふっと、緩めてみる。 ふっと、心を緩めてみる。

ふっと、力を抜いてみる。 握りしめた手のひらを そっと開いてみる。

すると そこに 有り余るほどの 豊かさを手にするかもしれないのです。

そう ふっと、力を抜いてみる。

長い間 頑張って 頑張って 頑張って 力を 蓄えてきた。

強くなってきた。 成長してきた。 時間も お金もかけてきた。

それを すべて ふっと緩めて 捨てた時、

あなたの 本当の 魅力と 才能が 華開く 』

「シングルママのほっとカフェ」より引用

この「コロナ禍」の令和2年度、頑張った生徒たちの努力を讃え、保護者の皆さまの支えに感謝しつつ、我々の更なる成長を課題として、令和2年度のみとせさせていただきます。一年間、ありがとうございました。

さあ、「春休み」です。次のステージに向けて、あなたの「**本当の魅力と才能**」を華開かせてください。

そして最後に、38年間の教員生活の中で、日進西中学校の生徒・保護者の皆さまに出会うことができ幸せな7年間でした。

私の「決めフレーズ」で締めくくります。

「みなさん、好調ですか？」……「私も好調です。好調なおじさんになります」

いつの日か「第2のふるさと につしん」に戻ってこられることを願って、さよならです。長い間、ありがとうございました。

【文責：校長 平山雅之】

